

デーヴァナーガリー文字で 日本語を書く②

町田和彦 (まちだ かずひこ)
東京外国語大学
アジア・アフリカ言語文化研究所教授

前回は、日本語の五〇音、濁音、半濁音のかな文字に相当するデーヴァナーガリー文字について説明した。これだけでもかなりの日本語は書けるが、もう一息がんばろう。今回は、まだ出てこなかった「ん」、「がっこう」、「きょうと」なども書けるようになる。

あなたの知り合いに日本に来たばかりのインド人がいるとしよう。彼(あるいは彼女)は、日本語もかな文字ももちろんぶんぶん読んで、読めるのはデーヴァナーガリー文字だけ。そしてこのインド人にとっても「新幹線の京都までの切符をください」という日本語(の発音)だけは教えてあげなければいけないという状況である。問題は「しんかんせん」、「きょうと」、「きつぷ」だ。日本語をデーヴァナーガリー文字で書くということは、かな文字をそのままデーヴァナーガリー文字で置き換えるのではなく、読めば日本語の音になるべく近くなるようにデーヴァナーガリー文字を書くことである。こういうときは、いったんかな文字の日本語をヘボン式のローマ字で書いてみよう。デーヴァナーガリー文字に直す音の連続がみえて

くる。

「しんかんせん」は shinkansen、「きょうと」は kyoto、「きつぷ」は kippu だ。これらに共通しているのは、後ろに母音が来ない子音だけの n や k や p が含まれていることである。子音だけをデーヴァナーガリー文字でどう書けばいいのだろう。前回少し説明したように、デーヴァナーガリー文字の子音字は単独では子音だけではなく、「か、が、さ」のように本来「あ」を含んでいる。

まず n つまり「ん」の書き方だが、これは簡単に文字の上に点をつける。表①は「ん」がある場合とない場合の例をあげている。ただし、語末の「ん」は点でなく、「な行」の子音字の下に斜めの線を引く。この斜めの線は子音字に含まれている母音(デーヴァナーガリー文字の場合は「あ」)を打ち消す働きをする。「ん」以外の子音をあらわすには、子音字の書き順の最後を省略した形を使う。デーヴァナーガリー文字の子音字は書き順が縦棒で終わるものが多いのだが、これらは縦棒を省略する。この

ように子音字の書き順の最後を省略したものを半子音字とよぶ。そして半子音字と子音字を組み合わせたものを結合文字とよぶ。この結合文字は、子音字と同じ要領で、上下左右に母音記号をつけることができる。これで「きつぷ」などの促音や、「きょうと」などの拗音をデーヴァナーガリー文字で書くことができるのである。表②は、日本語でよく出てくる促音や拗音の書き方の例がでてくる。結合文字を構成する子音字と半子音字の形もあわせて比べてほしい。

最後の表③



ニューデリーの道路標識。上からヒンディー語のデーヴァナーガリー文字、英語のローマ字、パンジャービー語のグルムキ文字(左)ウルドゥー語のアラビア文字(右)

図①

位置	「ん」あり	「ん」なし
語中	さんか सांका sankā	さか साका saka
	さんど सांदो sando	さど सादो sado
	さんば सांबा samba	さば साबा saba
語末	いけん इकेन् iken	いけ इके ike

図②

結合文字					
子音字	半子音字	促音	例	拗音	例
क	क् k	क्क	गाँकौ गाक्को gakkō	क्य	きょうと क्योतो kyoto
ग	ग् g	ग्ग	बाँग् बाग्गु baggu	ग्य	ぎゃく ग्याकु gyaku
स	स् s	स्स	आँसारी आस्सारि assari		
न	न् n			न्य	ニャー न्या nya
ब	ब् b			ब्य	びょうき ब्योकि byoki
प	प् p	प्प	होँपेटा होप्पेता hoppeta	प्य	はっぴょう हप्प्यो happyo
म	म् m			म्य	みょうじ म्योजि myoji

図③

しんかんせん	の	きょうと	まで	の	きつぷ	を	ください
shinkansen	no	kyoto	made	no	kippu	o	kudasai
शिंकांसेन्	नो	क्योतो	मादे	नो	किप्पु	ओ	कुदासाइ